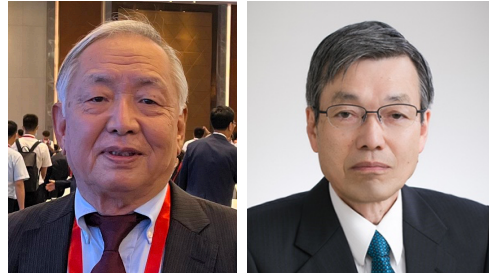


## 支部長あいさつ

日本工学アカデミー（EAJ: The Engineering Academy of Japan）は、「未来社会を工学する」（Engineering the Future）をスローガンに、人類の安寧とより良き生存を叶えられる未来社会をデザインすることを理念とし、学術及び実務に携わる我が国を代表するエンジニアで構成される集団として、1987年に設立されました。創立当初から、国際工学アカデミー連合の一員である専門家集団として、工学の国際的な存在価値を高めるための活動を行っています。



八重樫武久

岩井善郎

日本工学アカデミー中部支部は、日本のものづくりの中核をなす東海地方と優れた技術力も持つ中小企業が集積する北陸・信州地方の中部8県を対象に、2016年に設立されました。中部圏には、8名のノーベル賞受賞者の輩出に見られる卓越した学術水準と、自動車をはじめとする様々な産業分野において世界屈指の技術水準を有しています。このような地域の特色を背景として、支部発足以来10年間にわたり林良嗣前支部長のもとで、一般公開の「EAJ中部レクチャー」を定期的に開催し、地域に根ざした産学官連携による技術革新、あるいは現代社会が求める異分野融合による人材育成等の課題について、会員のみならず地域社会の市民の皆様と情報を共有し議論してまいりました。それらの成果は、日本工学アカデミー定時総会において「会員が選ぶ行事賞」に4年連続（2022～2025年）表彰されるなど、高く評価されています。支部会員の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

この度、これまでの支部活動のさらなる発展を目指して共同支部長体制で運営することになりました。中部支部の強みである産業界との緊密な連携、ならびに東海と北陸・信州の2地域の融合を一段と進化させる新たな方策として、「学界と産業界の双方の視点」と「地域特性」を踏まえた二名の支部長による協同運営を提案し、日本工学アカデミー理事会でご承認いただきました。その中での活動は、支部発足時の原点を大切にしつつ、時代の変化にも柔軟に対応してまいります。具体には、

「Engineering the Futureを思い描いて、アカデミアと産業界が連携して、先端科学技術イノベーション(STI for SDGs)による人々の幸福(Well-being)増進と生態系・気候危機(Eco-system & Climate Emergency)回避を共に達成するための社会経済変革(Transformation of Society & Economy)に積極的に取り組んでまいります。」

支部会員をはじめ、企業所属や工学以外の人文社会分野など幅広い皆様に新たな会員として参画をお願いし、個別の組織や分野では得られない広範な交流の機会の充実を目指します。微力ではございますが、責務の遂行に全力を尽くす所存です。

皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

日本工学アカデミー

中部支部長

八重樫武久 岩井善郎